

## Q 防災対策に向けて

おがわ 小川 しげる 茂 議員



## A マニュアルを策定し、災害に関する情報伝達等の改善を図る

**問** 防災ハザードマップの有効活用について。

**答** 危険箇所の確認や災害時の注意点などを考える災害図上訓練など、地域でも活用されている。

**問** 情報伝達体制について。

**答** 令和元年台風第19号の対応では、防災行政無線、ホームページ、ツイッター及び消防団員による広報活動を実施した。

**問** 市民センターにおける臨時避難所の開設について。

**答** 台風第19号の対応では、自主避難者を受け入れるため、6市民センターに開設した。

**問** 帰宅困難者受け入れ施設開設について。

**答** 台風第19号の対応では、鶴ヶ島海洋センターと若葉駅前出張所を一時滞在施設として開設した。

**問** 台風第19号の被害の検証は。

**答** 今後は実務的な対応マニュアル

を作成し、被害確認の迅速化を図る。また、速やかな権限証明等の発行と早期復旧に努める。

**問** 今後の課題と対応策は。

**答** 市民への防災情報の提供などに課題があった。台風等の接近から通過後における一連の実務的な活動に対して、災害対応を円滑に進めるマニュアルを各担当部署で策定し、対策に努める。



**問** 新たな道路ネットワークの整備スケジュールについて。

**答** 今年度は、都市計画道路川越鶴ヶ島線の一部と鶴ヶ島南通り線を整備しており、現在工事は順調に進んでいる。来年度も引き続き川越鶴ヶ島線の整備を進める予定である。圏央鶴ヶ島IC周辺は国や東日本高速道路株式会社、国道407号との交差点は飯能県土整備事務所とそれぞれ調整して

整備を進めている。また、現在工事は順調に進んでいる。来年度も引き続き川越鶴ヶ島線の整備を進める予定である。圏央鶴ヶ島IC周辺は国や東日本高速道路株式会社、国道407号との交差点は飯能県土整備事務所とそれぞれ調整して

## Q

圏央鶴ヶ島IC周辺道路ネットワーク

うちの 内野 よしひろ 嘉広 議員



A 周辺への影響に配慮しつつ、利便性向上を目指していく

**問** 現時点では具体的な整備スケジュールは示せない。

**答** 立体ランプ化に伴う市道315号線の分断による影響と代替道路の整備について。

**問** 市道315号線の封鎖によって、一般車両、周辺企業の物流、自転車や歩行者などに影響があると考えられる。そこで、農業大学校跡地内を通る市道1367号線を延伸し、今年度整備している川越鶴ヶ島線と鶴ヶ島南通り線に接続させる。さらに、運動公園脇の市道709号線を拡幅して接続させることで、市道315号線の代替道路の一つになると考えている。

### ◎その他の質問

- 一 大型台風等の自然災害への対応及び今後の防災・減災対策
- 二 「鶴フェス」の今後とイベント等を生かした本市の魅力発信及び地域産業の活性化について

## 市の考えを問う 一般質問

12月12日・13日・16日の3日間行われた一般質問の主な質問（Q）と答弁（A）の概要を掲載します。